

① 経済学・経済政策

【総評】

令和8年度の本試験は、過去25年間の設問数と同じで25問であった。また、前年度は25問中22問が5肢択一であったが、今年度は25問中9問が5肢択一であり、大幅に減少した。さらに、前年度は正誤の組み合わせ問題が15問出題されたが、今年度は7問に減少した。難易度については、基本事項をもとに得点できる問題も多く、5肢択一問題や正誤問題数が減少したため、昨年と比べると難易度は下がり、今年度は標準レベルといえる。よって、今年の問題は、過去問題を軸に演習をしっかりと取り組まれた方にとっては、合格ラインの60点は確保できたものと思われる。本科目は、マクロ経済学、ミクロ経済学から出題されており、今年度は解答数ベースで、マクロ経済学10問、ミクロ経済学15問であった。

第1問～第10問がマクロ経済学からの出題問題と考えられる。例年見られる統計資料をもとにした出題が3問あった。基本的な論点に関する問題として、第5問（GDPデフレーター）、第7問（IS-LM分析）、第8問（貨幣理論）、第9問（マンデル＝フレミング・モデル）で得点を取りたい。統計資料問題の第2問（経常収支の国際比較）も正答したいところである。

第11問～第25問がミクロ経済学からの出題問題と考えられる。微分を用いる計算問題などは出題されず、頻出論点を中心に、基本事項やその応用問題が出題された。基本的な論点に関する問題として、第13問（需要の価格弾力性）、第14問（市場均衡の安定性）、第17問（短期費用曲線）、第20問（独占的競争）、第25問（ゲーム理論）で確実に得点を取りたい。さらに過去問題にしっかりと取り組まれた方は、第15問（異時点間の消費）、第16問（補助金の効果）、第19問（費用逡減産業）、第24問（労働市場）の正解も期待したいところである。

以上